

義務教育の指導要領

- ・知識習得学習だけの学習から脱却
- 基礎的、基本的な学習
- 思考力、判断力、表現力
- 問題解決的な学習
- 自主的、自発的な学習

↓

B問題(活用問題、教科横断的な問題)

2

試験問題の変化

- 全国学力学習状況調査→B問題
 - *記述式、考え方を表現
- 高校入試→B問題
- 大学入試改革→高校教育の転換を迫る
 - ・1点差の合否(1発入試)→生きる力の入試
 - ・覚える→考える
 - *今の小学6年生が受験する頃(2020年度)

3

アクティブ・ラーニング

- 大学教育で行われていること
 - ・授業者が一方向的に学生に知識伝達をする講義スタイルではなく、課題研究や、ディスカッション、プレゼンテーション、グループ・ワークなど学生の能動的な学習を取り込んだ授業。
 - *文科省、用語集より

4

大学での授業モデル

- 1 学習内容の説明(15分)
パワーポイント、プリントの説明*時間短縮
- 2 問題演習(35分)
 - ・グループで演習問題(学び合い、教え合い)
 - ・他グループからの情報
- 3 振り返り(5分)
確認テスト、演習問題と同じ
- 4 質問タイム(5分)

5

次期学習指導要領

- 主体的な学習方法の導入、
評価の改善(覚える→知識の活用、思考力)
- 英語教育の充実
- 幼稚園と小学校の接続
- 運動意欲の向上
- 障害のある子への教育
- 教科横断的な教育
- *小は20年、中は21、高は22年以降

6

日本の教育課題

- ① 学校卒業後
- ② 受け身の授業
- ③ 主体的な授業

7

放課後の多忙(4月) **わずか2日**

月	火	水	木	金
		1職会	2職会	3三部会
6職会	7式準備	8終礼	9職会	10終礼
13 ①	14三部会	15 ②	16教務主	17終礼
20運委会	21終礼	22P総会	23家訪問	24
27職会	28家訪問	29休日	30家訪問	

8

放課後の多忙(6月) **空はわずか3日**

月	火	水	木	金
1 ①	2 ②	3研打ち	4事前研	5終礼
8水泳ク	9三部会	10合研	11市教研	12防犯研
15水泳ク	16水泳ク	17水泳	18 ③	19終礼
22運委会	23高部会	24校研	25市教研	26終礼
29職会	30水泳ク			

9

学校風土 1

子供より会議

授業カット体質

行事中心

変えない文化(現状肯定)

学力・健全育成の危機感なし

学校(教師)優位文化

基礎研究不足

10

伸びない学校

変えない学校
= **変わらない学校**
(多忙、学力の伸びなし)

11

取組み方法に課題

改革方法を知らない
分からない
(理論より具体的な取組み方法
が知りたい……)

12

多くの予算・人・物

各種制度

施策

入れたが⇒解決不可能

13

日本の教育改革

○外部頼みの改革

・民間人校長

・第三者委員会

・コミュニティスクール

14

どげんかせんと
いかん

(子供と向き合う時間の確保)

15

本質を変える

16

「学校の常識」を見直す

○これまでの「学校の常識」を
疑う姿勢、発想の転換

教師の学校観を変える

17

子供と向き合う

・ゆとりある教育課程

・ゆとりの時間



学力向上 健全育成

18

脱 個人個人の学校

19

これからの学校

個人個人の学校
↓
校内統一事項増
小中統一事項増
↓
細部まで統一した学校

20

日本を変えるリーダー

- 新学校常識を創る
- 周囲の常識に合わせない
- スピード
- 共通した指導内容

21

リニューアル大岱

22

子供と向き合う

- *放課後学習・あそびを
- *会議は、学期中はしない
- *行事は少なく、ゆとりを
- 教育課程を全部、見直す

23

リニューアル大岱 新学校システム

豊かに学び育つ子どもの育成

～言語わざを生かした学び合いの授業～

新学校システム編

文部科学省学力向上研究推進校
東村山市教育委員会教育課題研究推進校



24

子供の实態 教師の実態

*** 学力への課題**

平成16年度
児童・生徒の学力向上
を図るための調査

生活指導主事の課題

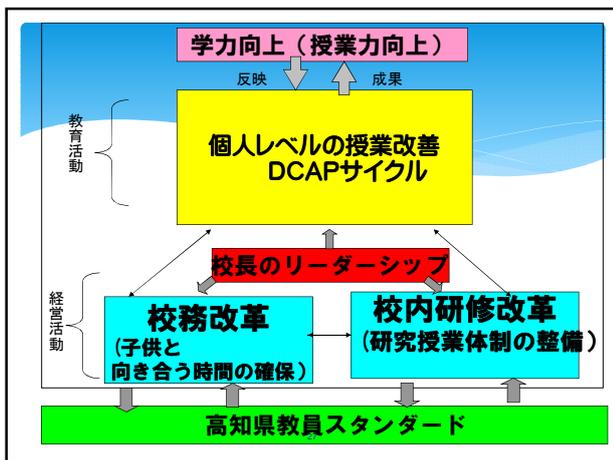
*** 教師の共通理解型**

会議や行事への 時間の
費やし

**「リニューアル大袋」を宣言
(平成16年9月1日)**

「〇〇しない」12か条

- ①火遊びをしない ②らくがきをしない ③廊下を走らない
- ④学校で飴やガムを食べない ⑥暴力(なぐる、ける)をしない
- ⑦窓から外に向かって大声を出さない ⑧宿題を忘れない
- ⑨遅刻をしない(朝は8時20分までに来る)
- ⑩茶髪にしない(髪の毛を茶色にしない) ⑪万引きをしない(お店の物や人の物をだまってもって来ない)
- ⑫エアガンで人を撃たない ⑬化粧をしない



大袋リニューアル

- ・校務リニューアル
- ・校内研修リニューアル
- ・個人レベルの授業改善

新学校システム

新学校システム

- 職員会議や教務部会等の会議を廃止
- 一役一人制による校務分掌
- 事案決定システム
- 直後プランシステム
- 1月から12月の教師仕事暦

ゆとりをもち教育活動を行っていく

新学校システム

会議の廃止

職員会議の問題点

- △同じ内容を毎年話し合っている。
- △次年度へ向けた話し合いは、年度末にまとめて行うことが多いため、結果的に改善されていないことが多い。
- △よく事案を知っている人に発言が偏ってしまう。
- △提示される議案は、各委員会、運営委員会等を通すため、時間を多く費やしてしまう。

教育活動直後に行うプラン作成のためのワークショップ会議へ

新学校システム

DCAPサイクルの確立

DCAPマネジメントサイクル

Plan
Action
Check
Do

教育活動直後評価
・ワークショップ
・直後プラン作成
(担当者起案)

教育活動の改善を図るためのマネジメントサイクル



新学校システム

一役一人制運営組織

22年度校

教師一人一人の責任感や学校運営参画意識の向上

新学校システム

事案決定システム

従来型 担当者→各種委員会→企画会議→職員会議

担当者《起案》 → 主任 → 主幹 → 副校長 → 校長 → 決裁

スピードのある決裁

校長の経営方針が確実に反映

新学校システム

職階制

統括校長 ◎新たな職階制度

校長

副校長

主幹教諭

主任教諭

教諭

事案決定システム

職層での決裁

事案決定システム+職層決裁⇒業務の効率化

新学校システム

12月決算の教育課程開発

従来型 4月～翌年3月 △3月、4月に過重な負担

大 位 1月～12月 ○仕事を分散化

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
						P	DO	C	DO	C	
新年度組織での実施				前期学校評価				後期学校評価			
											新年度計画完成

教師のゆとり⇒子供の落ち着き

新学校システム

複線型の週時程

平成22年度週時程表 東区山立本位小学校						早割り5時程
8:20	8:30	8:40	8:50	9:00	9:10	9:20
1校時	1校時	1校時	1校時	1校時	1校時	1校時
9:15	9:25	9:35	9:45	9:55	10:05	10:15
2校時	2校時	2校時	2校時	2校時	2校時	2校時
10:10	10:20	10:30	10:40	10:50	11:00	11:10
3校時	3校時	3校時	3校時	3校時	3校時	3校時
11:05	11:15	11:25	11:35	11:45	11:55	12:05
4校時	4校時	4校時	4校時	4校時	4校時	4校時
12:00	12:10	12:20	12:30	12:40	12:50	13:00
5校時	5校時	5校時	5校時	5校時	5校時	5校時
13:05	13:15	13:25	13:35	13:45	13:55	14:05
6校時	6校時	6校時	6校時	6校時	6校時	6校時
14:00	14:10	14:20	14:30	14:40	14:50	15:00
7校時	7校時	7校時	7校時	7校時	7校時	7校時
15:05	15:15	15:25	15:35	15:45	15:55	16:05
8校時	8校時	8校時	8校時	8校時	8校時	8校時
16:00	16:10	16:20	16:30	16:40	16:50	17:00
9校時	9校時	9校時	9校時	9校時	9校時	9校時
17:05	17:15	17:25	17:35	17:45	17:55	18:05
10校時	10校時	10校時	10校時	10校時	10校時	10校時
18:00	18:10	18:20	18:30	18:40	18:50	19:00
11校時	11校時	11校時	11校時	11校時	11校時	11校時

授業時間数の確保

新学校システム

授業時間数 余剰時数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
時数	972	1019	1093	1087	1085	1083
(標準)	(816)	(875)	(945)	(980)	(980)	(980)

○習熟や発展の時間に充てる。
○教科指導の充実を図る。

余剰時間を学力向上に向けた指導の時間に充てる

新学校システム

教育課程の作成

『長期休業日中に行うこと』

- 1 次年度カリキュラムの方針決定
- 2 新年度年間指導計画作成
- 3 新年度評価計画作成

仕事にゆとりをもち、内容を充実させる

新学校システム

学校行事改革のデパート化

- 1 縦割り遊びから「学びの異学年交流」へ
- 2 子供が創り上げ、地域が支える「運動会」
- 3 学校評議委員会主催の「読書選手権」
- 4 始業式・入学式の合体
- 5 子供が自己の生き方を発表する卒業式
- 6 歌声響く学校「学級対抗合唱コンクール」
・・・など

学校行事改革のデパート

子どもと向き合うための提言

- 1 職員会議を止め、ワークショップ会議へ
- 2 直後プランDCAPサイクル教育課程
- 3 一役一人制運営組織
- 4 事案決定システム
- 5 教育内容のスリム化
- 6 授業カットなし
- 7 学力を上げる

新学校システム

全国学力学習状況調査

平成22年度全国学力調査国語A

平成22年度全国学力調査国語B

平成22年度全国学力調査算数A

平成22年度全国学力調査算数B

学校システムの開発・実践が子供たち学力向上へとつながる

リニューアル大岱  新学校システム

豊かに学び育つ子どもの育成

～言語わざを生かした学び合いの授業～

新学校システム編 終

文部科学省学力向上研究推進校
東村山市教育委員会教育課題研究推進校



43

リニューアル大岱  新校内研究システム

豊かに学び育つ子どもの育成

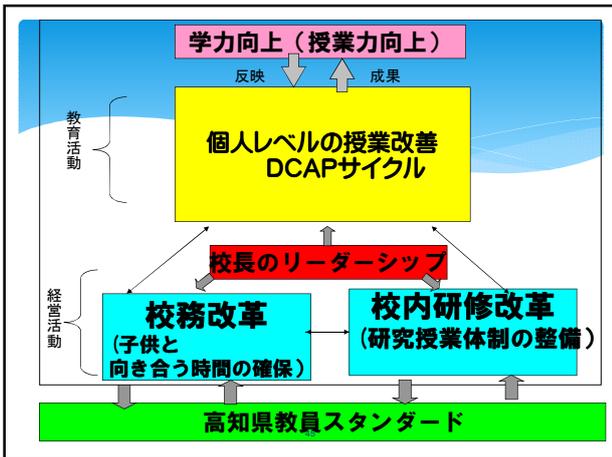
～言語わざを生かした学び合いの授業～

新校内研システム編

文部科学省学力向上研究推進校
東村山市教育委員会教育課題研究協力校



44



新校内研究システム

プロフェッショナル
ティーチャーズノート
の開発

2009 Professional

授業作りのための教師用テキスト

プロノートとは・・・?

校内研究会に参加する教員が情報を共有し、蓄積し、自己の授業改善に生かしていくためのノートである。

47

プロノートの主な内容

- ・プロノートの意義
- ・授業原理
- ・授業改善のポイント
- ・問題解決型授業展開
- ・大岱言語わざ・学び合い
- ・指導案の書き方
- ・研究協議会の進め方
- ・ワークショップの記録

48

プロノートの成果

- 研究の目的や方法が共有化された。
- 組織的な授業改善を行えた。
- 学力向上を実現することができた。
- 授業力を高める学校風土となった。
- 若手教師の授業力が上がってきた。
- 切磋琢磨する教師が増えた。

49

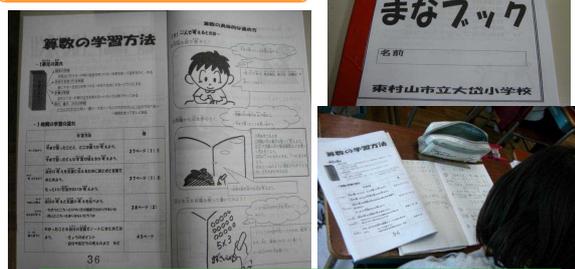
中学生用まなブック

教科横断的学習まなブック

50

新校内研究システム

まなブック



主体的な学習の基盤となる教科書

まなブックの活用方法

- * 学習の進め方が
分からなくなった時に
確認をする



どんな式にしたら
いいのかなあ？

52

まなブックの成果

- * 問題解決的な学習の指導法が定着し、授業改善が図られた
- * 自ら進んで学ぶ学習が定着してきた結果、学習が楽しいと思う子どもが多くなった
- * 学びの型を習得することで、まなブックを超える学習が見られるようになった

さらなる授業改善は、教材研究にかかっている

53

新校内研究システム

これまでの校内研究の課題

- △ 教師全員が研究授業をしていない
- △ 校内研究が形だけのものである
- △ 研究が日々の指導につながっていない

大谷新校内研究システムの開発

教師全員が参加し、日々の授業改善に資する校内研究

54

新校内研究システム

大袋式授業改善DCAPサイクルの確立

〇年間1人2回の研究授業を行う。

研究授業
問題解決学習
の授業実践

論文作成
指導案修正

ワークショップ型
研究協議会

授業改善策

新校内研究システム

スケジュールマネジメント

だれがいつまでに何を

研究授業日	指導案提出日	机上配布日	模擬授業日	論文提出日
11月1日	10月25日	10月28日	10月31日	11月3日
11月2日	10月26日	10月29日	11月1日	11月4日
11月3日	10月27日	10月30日	11月2日	11月5日
11月4日	10月28日	10月31日	11月3日	11月6日
11月5日	10月29日	11月1日	11月4日	11月7日
11月6日	10月30日	11月2日	11月5日	11月8日
11月7日	10月31日	11月3日	11月6日	11月9日
11月8日	11月1日	11月4日	11月7日	11月10日
11月9日	11月2日	11月5日	11月8日	11月11日
11月10日	11月3日	11月6日	11月9日	11月12日
11月11日	11月4日	11月7日	11月10日	11月13日
11月12日	11月5日	11月8日	11月11日	11月14日
11月13日	11月6日	11月9日	11月12日	11月15日
11月14日	11月7日	11月10日	11月13日	11月16日
11月15日	11月8日	11月11日	11月14日	11月17日
11月16日	11月9日	11月12日	11月15日	11月18日
11月17日	11月10日	11月13日	11月16日	11月19日
11月18日	11月11日	11月14日	11月17日	11月20日
11月19日	11月12日	11月15日	11月18日	11月21日
11月20日	11月13日	11月16日	11月19日	11月22日
11月21日	11月14日	11月17日	11月20日	11月23日
11月22日	11月15日	11月18日	11月21日	11月24日
11月23日	11月16日	11月19日	11月22日	11月25日
11月24日	11月17日	11月20日	11月23日	11月26日
11月25日	11月18日	11月21日	11月24日	11月27日
11月26日	11月19日	11月22日	11月25日	11月28日
11月27日	11月20日	11月23日	11月26日	11月29日
11月28日	11月21日	11月24日	11月27日	11月30日
11月29日	11月22日	11月25日	11月28日	11月31日
11月30日	11月23日	11月26日	11月29日	12月1日
11月31日	11月24日	11月27日	11月30日	12月2日
12月1日	11月25日	11月28日	11月31日	12月3日
12月2日	11月26日	11月29日	12月1日	12月4日
12月3日	11月27日	11月30日	12月2日	12月5日
12月4日	11月28日	11月31日	12月3日	12月6日
12月5日	11月29日	12月1日	12月4日	12月7日
12月6日	11月30日	12月2日	12月5日	12月8日
12月7日	11月31日	12月3日	12月6日	12月9日
12月8日	12月1日	12月4日	12月7日	12月10日
12月9日	12月2日	12月5日	12月8日	12月11日
12月10日	12月3日	12月6日	12月9日	12月12日
12月11日	12月4日	12月7日	12月10日	12月13日
12月12日	12月5日	12月8日	12月11日	12月14日
12月13日	12月6日	12月9日	12月12日	12月15日
12月14日	12月7日	12月10日	12月13日	12月16日
12月15日	12月8日	12月11日	12月14日	12月17日
12月16日	12月9日	12月12日	12月15日	12月18日
12月17日	12月10日	12月13日	12月16日	12月19日
12月18日	12月11日	12月14日	12月17日	12月20日
12月19日	12月12日	12月15日	12月18日	12月21日
12月20日	12月13日	12月16日	12月19日	12月22日
12月21日	12月14日	12月17日	12月20日	12月23日
12月22日	12月15日	12月18日	12月21日	12月24日
12月23日	12月16日	12月19日	12月22日	12月25日
12月24日	12月17日	12月20日	12月23日	12月26日
12月25日	12月18日	12月21日	12月24日	12月27日
12月26日	12月19日	12月22日	12月25日	12月28日
12月27日	12月20日	12月23日	12月26日	12月29日
12月28日	12月21日	12月24日	12月27日	12月30日
12月29日	12月22日	12月25日	12月28日	12月31日
12月30日	12月23日	12月26日	12月29日	1月1日
12月31日	12月24日	12月27日	12月30日	1月2日

〇研究授業日
〇指導案提出日
〇机上配布日
〇模擬授業日
〇論文提出日
…など

進行管理の徹底による円滑な研究運営

新校内研究システム

学力向上指導案様式の提示

初任者・実習生も研究に参加できる

新校内研究システム

模擬授業

全教師で行い、授業改善のために意見を出し合うこともある。

- ① 授業がスムーズに流れるかどうか
- ② 問題解決型の授業展開になっているか
- ③ 学び合いが活性化するかどうか

新校内研究システム

問題解決的な学習

教師向け問題解決の流れ

子供向け問題解決の流れ(まなブック)

問題解決的な授業の流れを教師も子供も理解すること

新校内研究システム

授業の3視点

よい授業は、教師の出番が少ない

子供が前面に出る授業を達成するための3視点

言語わざ

学び合い

振り返り